



南犬飼中だより

建学の精神「向い原魂」

- 物事をまじめに根気よく続けよ
- 自発的実践活動を続けよ

【あるものに自信と誇りをもとう】

新しい年、2024年（令和6年）を迎えました。保護者、地域の皆様には、ご家族ともに健やかな新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。また、昨年は、様々な教育活動にご支援ご協力をいただき誠にありがとうございました。おかげ様で、学校行事を始め、様々な教育活動を予定通り実施することができ、生徒達も健やかに成長することができました。新年を迎え教職員一同、心を新たに生徒達のために指導にあたって参ります。

さて、3学期の始業式にあたり、校長から「あるものに自信と誇りをもとう」という話をしました。詳細は以下のとおりです。

生徒の皆さんは、1・2学期の授業や行事等、様々な活動を通して、「努力が報われた」「友達との絆が深まった」「学級のまとまりがよくなった」など、たくさんの「宝物」を手に入れることができました。しかし、私達は、ともしれば身近にある大切なものに気づかなかつたり、そのありがたさを軽視しがちとなります。つまり、私達は「ある」ものに鈍感で、「ない」ものに敏感なのです。「○○がない」、「□□もない」、「◇◇もしてもらえない」。まさに、ないないづくしです。実際には、家に帰ると食事があり、寝る布団があり、家族がいても「ないもの」のほうに目がいきがちです。家族とのやりとりでも「○○してくれない」などと、まるで「くれない病」です。日本の小説家で、日本財団会長や日本郵政取締役などを務めた文化功労者の曾野綾子（そのあやこ）さんという作家がいます。その方が書いた本に「老いの才覚」というものがあります。生徒の皆さんの中には、「老い」なんて自分たちには関係ないと考える人もいるかもしれませんが、その本の中にこんなことが書いてあります。「どんな若い人でも『くれない』と言い出したときが、その人の老化の始まりです」「若くても、他者への配慮がなくなったら、それが老人なんですよ」と、若者に向けたたくさんの言葉がありました。

曾野さんは「○○してくれない」と不平・不満ばかりを口にする人のことを「くれない族」と呼んでいます。「何もしてくれない」と相手への不満を言う前に、「自分でしてみよう」という気持ちに、どうしてなれないのですか？曾野さんは、「『何をしてもらおうか』ではなく、『何ができるか』を考えて、その任務をただ遂行する」ことの

大切さを訴えています。そういえば、アメリカの第35代大統領ジョン・F・ケネディが、就任演説で、このような言葉を訴えました。

「Ask not what your country can do for you; ask what you can do for your country」

「国があなたのために何ができるかではなく、あなたが国のために何ができるかを問うてほしい」ケネディ大統領は演説で、「人類の共通の敵」である暴政、差別、貧困、戦争そして疾病との戦いにも参加することをアメリカ国民だけでなく、世界の国々に訴えました。つまり、ケネディ大統領は「自由」の価値とそれを守るためになすべき行動を世界の人々に問いたのです。素晴らしい演説だと思います。

最後に、1・2学期を通して、家族、友達、担任の先生や部活動の先生などにしてもらったことで、「うれしかったこと」を思い浮かべてもらいました。そのことに対して、生徒の皆さんが「して返したこと」には、どんなことがあるのか、具体的に考えてもらいました。そうしたエピソードをたくさん思い出すことができた人は、3学期は、「自分ができること」をできるだけ思い起こし、それを1つ1つ実行してほしいと思います。なかなか思い出せなかった人は、自分が「くれない族」になっていないか、謙虚に振り返り、これまでどんなやりとりがあったかを思い返してもらいました。「ある。ある。ある。」が、きっと見つかります。そして、そこからがスタートです。この3学期、生徒の皆さんが、「くれない族」から「する族」に転換が図れるよう期待したいと思います。

【次年度生徒会役員決定しました】

12月15日（金）、令和6年度の生徒会長・副会長を選出する生徒会選挙を実施しました。それまで立候補者は、選挙向けの演説動画を撮影したり、毎朝昇降口に立って選挙活動を行ってきました。選挙前に、パネルディスカッションを実施し、現生徒会長と副会長が考えたテーマに沿って、南犬飼中がより良くなることを目指したディスカッションが実施できました。今年度は自分の主張だけでなく、他の立候補者に質問をしたり、提案を付け加えたりなど、今まで以上にディスカッションという要素を深めた内容となりました。今回の様子から、日頃の授業で友達の発表を聞き、その意見に対して発言する習慣が身に付いて

いることがよく分かりました。これからの社会は正解のない問いが多い社会と言われています。現在の国語の教科書には議論の仕方を学ぶ単元や合意形成の仕方や意義を学ぶ単元があります。また、各専門委員会や学級会活動でも、議論することの大切さを確認しながら、活動しています。これから未来を生きる中学生にとって正解のない問いに対し、納得解を導き出す力が求められています。

成人年齢が18歳になったことで、中学生にとっても選挙がより身近に感じられるものとなりました。生徒会選挙を通して選挙の意味や価値を理解することも大切な学びです。パネルディスカッション後の選挙では一人一人が1票の価値を認識し、責任をもって投票しました。立候補した皆さんが、本校の課題と向き合い、様々な提案をするなど、実に立派な選挙活動でした。その想いを大切に、これからの南犬飼中をより魅力的な学校に創り上げていくことを期待しています。



パネルディスカッションの様子

【次年度生徒会役員】

- ・会長 : 2年 小林倫太郎
- ・副会長 : 2年 飯塚晴斗 1年 赤羽根心夏
- ・書記 : 2年 岡本美紗姫 2年 床井美海
 1年 葭葉航平
- ・会計 : 2年 中新井凜 2年 小倉杏優
 1年 伊沢英真

【授業参観、子育て・親育ち講座】

1月15日(月)本年度最後の授業参観を実施しました。多くの保護者の方に参加していただき、生徒達は楽しそうに授業に取り組んでいました。



授業参観の様子

また、PTAの方々の提案で、ペットボトル回収と能登半島沖地震災害義援金募金を行いました。授業参観前のわずかな時間ではありましたが、多くの保護者の方に協力いただき、61,214円の募金を集めることができました。皆様の温かい想いと共に、日本赤十字社に送金いたします。ご協力、本当にありがとうございました。



募金活動をする
大橋PTA会長

ペットボトル回収

子育て・親育ち講座では「自分の将来が楽しみになる思春期講座」～中学生の心とからだ・命の大切さ・自分を大切に～というテーマのもと、獨協医科大学病院助産師の舟橋好恵先生にご講話いただきました。たくさんの資料用いて、性についての正しい知識と性の悩みなどを分かりやすく説明いただき、生徒達はじっと耳を傾けていました。お腹の中の赤ちゃんの写真や出産の写真に、保護者の皆さんにおかれましても、感慨も一入だったのではないのでしょうか。たくさんの命を取り上げている助産師さんだからこその言葉に、「命を、自分を、大切にしてほしい」という熱い想いが十分伝わってきました。



子育て・親育ち講座
舟橋好恵先生

お知らせ

- ◆2月5日(月)～9日(金) 教育相談
- ◆2月7日(水)、8日(木) 特色選抜入試
- ◆2月13日(火)～22日(木)
ノータレビ・ノーゲーム・ノーネット週間
- ◆2月13日(火) 学校運営協議会
- ◆2月16日(金) 立志式、PTA本部役会
第3回制服検討委員会
- ◆2月19日(月)、20日(火)
1・2年学年末テスト
- ◆2月26日(月) 3年生を送る会